



タイフェックス ジャパンパビリオン

見本市「THAIFEX」②

タイで日本食需要堅調、注目の「抹茶」



な食品・飲料のメ
ガトレンドと結び
つけこれを体現。
「世界第4位の食

アジア最大級の食品・飲料見本市「THAIFEX 2025」が5月27～31日までタイ・インパクトアリーナで開かれたが、会期中の成約額は約1350億バーツ(約5940億円、1バーツ約4・4円)と、当初予想の1000億バーツ弱比で35%増の伸びを達成した。タイ商工会議所やドイツのケルンメッセなど、国内外のパートナーの強力な協力も一助になっているようだ。

見本市では、起業家が新製品や食品のイノベーションを発見し、ビジネスを探索し、新鮮な視点を得るためのプラットフォームが提供され、植物由来の製品、持続可能な商品、機能的食品、有機農産物などの主要

品・飲料見本市に成長した」(タイ王国商務省国際貿易振興局「DITP」)。
成約金額上位5カ国は中国、タイ、インド、ベトナム、日本の順。

日本産品では引き続き外食産業向けや家庭用商品が堅調な伸びを見せているほか、生鮮や食品、酒類も含めた飲料などへの関心が高いことも伺えた。

日本メーカーブースでは、伊藤園(伊藤園タイランド・橋川太一氏)は、「タイは抹茶がブームを超えるほどの人気を集めている。ブースでも抹茶飲料の試飲に行列ができるほど。東南アジア各国からの関心も高い」と話す。バンコク市内でも「抹茶」に特化したカ

また、ニッポン(タイニッポン・西川洋平氏)は、「日本と変わらないレベルのベーカーリーも増えているほか、ピザも引き続き高い人気だ。今年のトレンドは「塩パン」で来場者からの関心も高い」などと話してくれた。ベーカーリー関連の出展社も多く、「塩味のクロワッサン」「ドーナツ」などが目立っていた。

フェもポピュラーな存在で、大手カフェチェーンでも人気メニューとなっている。

が参加し、牛肉や水産物、茶類、調味料、酒類、ゆず関連製品、健康食品などを出品した。

増としたのが、喫茶329店舗、13・1%増、蕎麦とうどん36店舗、16・1%(喫茶、蕎麦とうどんともにバンコク近郊で増加)など。

また50店舗以上展開するブランドチェーンが13企業、11・50店舗が39企業、6・10店舗59企業、2・5店舗421企業。51店舗以上(レストランFUJI、8番らーめん、やよい軒、大戸屋ほか。写真右下はバンコク「大戸屋ターミナル21店」は増加傾向にある。なお「抹茶ブームに沸く」とも紹介したが、現地系のカフェなども含んだ人気であり、日系ストアの「ドン・ドン」では「抹茶」だけの特設コーナーで大陳販売するなど、健康志向にも乗り、これからの流れが続くと見られている。

(松丸浩二)



伊藤園ブース

ヤマサ醤油(ヤマサアジアオセアニア・黒田咲氏)は、「タイも引き続き日本食需要が高く、業務用の引き合いも強い。本場・本物志向のユーザーも増えている」と話す。現地では引き続き日本食レストラン数も増えて



ヤマサ醤油ブース

業態別では、総合和食の1439店舗、6・3%増。続くのは寿司1279店舗、7・9%減、ラーメン802店舗、8・2%増、居酒屋480店舗、9・8%増(バンコクで増加)の順。2ケタ



ニッポンブース

おり、中でも総合和食や蕎麦・うどん店は増えていくことから、今後への期待も大きい(関連後述)。
また、ジェットロは展示会会場に「ジャパnpaビリオン」を設置。前年(35社・5団体)を上回る37社・7団体

り取りを行う」等の声も聞かれた。
ここで「タイの日本食レストラン」事情に触れてみる。ジェットロ調査の2024年調査結果によると、タイ全土での店舗数は5916店、前年比2・9%増となった。うちバ

